

「瀬戸内海クルーズ推進会議」第1回中国エリア会議を開催しました

- 昨年12月13日(木)に開催された「瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回全体会議」において、近畿・中国・四国・九州の各エリアごとにエリア会議を設置し、各エリア会議ごとの瀬戸内海クルーズの推進を図ることが確認されました。
- 2月7日(木)、他のエリアに先駆け中国エリアにおける瀬戸内海クルーズの推進強化を目的に、「瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回中国エリア会議」を開催しました。
- 当会議では、瀬戸内海クルーズに関する最新動向の情報共有を図るとともに、中国エリアにおける瀬戸内海クルーズの更なる推進に向けた取組方針について意見交換を行い、中国エリアにおける今後の進め方を確認しました。

開催概要

- 【開催日】平成31年2月7日(木) 15:00~16:30
- 【場所】ホテルメルパルク広島 6階『平成』
- 【次第】(1)座長の選出
(2)瀬戸内海クルーズの推進について
(3)今後の進め方について

＜主な意見内容＞

- 1港だけでのクルーズ船誘致は難しいと実感しており、他の港湾と連携してポートセールスを実施しているところ。
- 港湾の規模が小さく、クルーズ船誘致は難しいと考えている。他方、観光資源には恵まれているので、情報プラットフォームやマイアミシートレードの公式パンフレットにも入れていただけると嬉しい。
- 近隣港湾に寄港したクルーズ船の客を、市内の観光地にオプションツアーで組み込めないか考えていきたい。
- これまで各港単位で取り組んでいたものをまとめて進めていくことは重要。東京オリンピックや大阪万博も控える中、みんなで力を合わせてハード・ソフト両面から取りくんでいく必要がある。
- 複数港湾で連携を行って取り組みを進めることは重要。その上で、連携のためのインフラという観点も重要になってくるのではないか。
- 港湾から観光地に向けての2次交通は重要な観点。中国地方の域内交通アクセスは、他地域と比較してまだまだな部分もあるため、交通事業者・自治体が協力して改善していく必要がある。



開会挨拶
喜安 和秀 副局長(座長)



「瀬戸内海クルーズ推進会議」第1回中国エリア会議 開催状況

瀬戸内海クルーズ推進会議の推進体制

瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体、民間団体等、国の機関から構成される『全体会議』及び、近畿・中国・四国・九州の各エリアに係る構成員から構成される『エリア会議』から構成。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内海クルーズ推進会議 代表：苅田中国経済連合会会長(中国電力会長)、副代表：千葉四国経済連合会会長(四国電力会長)

全体会議 総括事務局：中国地方整備局(港湾空港部)
事務局：近畿地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局(各港湾空港部)

【メンバー】

- ・重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・広域的活動する民間団体等
- ・国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・瀬戸内海の全体の課題整理
- ・瀬戸内海全体におけるクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及び全体の取組の進捗管理

情報共有  提案・報告

エリア会議

【メンバー】

- ・各エリアの重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・各エリアの民間団体等
- ・各エリアの地方自治体
- ・各エリアの国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・各エリアの課題整理
- ・各エリアのクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及びエリアの取組の進捗管理

近畿エリア会議

事務局：近畿地方整備局
(港湾空港部)

中国エリア会議

事務局：中国地方整備局
(港湾空港部)

四国エリア会議

事務局：四国地方整備局
(港湾空港部)

九州エリア会議

事務局：九州地方整備局
(港湾空港部)

瀬戸内海クルーズ推進会議として進める具体的な取組み

○瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議において承認された5つの取組事項に基づき、具体的な取組みとして、以下の項目を進めることとする。

| 瀬戸内海クルーズ推進会議として進める取組み | 具体的な取組み |
|--|--|
| <p>【取組1】 港湾での受入環境改善</p> <p>【取組2】 港から観光地へのアクセス性向上</p> | <p><u>各港の課題整理に向けた基礎調査の実施と課題の整理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 各港における「港湾での受入環境」、「港から観光地へのアクセス性」に関する課題整理に向けた基礎調査を実施し、課題を整理 <p><u>『クルーズ船誘致アクションプラン』を策定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 課題の整理結果を基に、各対象港湾ごとに『クルーズ船誘致アクションプラン』を関係構成員が策定 ■ 同アクションプランに基づき、「港湾での受入環境改善」、「港から観光地へのアクセス性向上」を図る |
| <p>【取組3】 瀬戸内海クルーズとしての情報発信</p> | <p><u>情報プラットフォームの構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 外航船社等を対象に、寄港地の港湾施設情報や観光地情報を発信する「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」のプロトタイプを構築をし、瀬戸内海クルーズとしての情報発信を開始し、以後、改善と情報の充実を図り、本格運用 |
| <p>【取組4】 船社への誘致活動</p> | <p><u>ワンストップ窓口体制の構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ クルーズ船社からの各種問い合わせに対し、窓口を一本化して情報提供することを目的として、「瀬戸内海Consultation Service(相談窓口)」を開設する。問い合わせ窓口の一元化を通じ、瀬戸内海クルーズの活性化を図る <p><u>シートレードグローバル等への参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 2019年4月に米国フロリダ州で開催される世界最大級のクルーズ見本市である『シートレードグローバル2019』へ参加し、「瀬戸内海クルーズ」を対外発信することでクルーズ船誘致に寄与する |
| <p>【取組5】 クルーズ船の航行・寄港に関するサポート体制の充実</p> | <p><u>船社等へのヒアリング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 船社等へのヒアリングを通じて、サポート体制の検討を行うとともに、サポート体制の構築及び充実を図る ■ 定期的に船社ヒアリングを実施し、ヒアリング結果の「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」への反映をはじめ、各取組のブラッシュアップに活用 |